

公開授業研究会のご案内

英語科研究主題

言語や相手への意識を高める授業づくり

～分析的視点を持たせた指導の工夫～

指導助言者：西周 信幸 先生（東上総教育事務所）

共同研究者：西垣知佳子 先生（千葉大学教育学部）

【授業1（10:05～10:55）】

3年C組 小松健一

『なるほど！ザ・ディベート ～説得力のある伝え方とは～』

昨年度、日常生活や社会における問題を題材にしたスピーチや、身近な話題をテーマとした模擬ディベートを実施しました。今年度はその経験を踏まえ、本校 CAN-DO リスト「話すこと」に示されている社会的なテーマをもとにディベートを実践します。

本時では、ある論題に対し、2グループが賛成・反対の立場に分かれて、第三者（ジャッジ）を説得することを目的とし議論します。相手を説得するためには、興味を引く内容の選択や、裏づけとなる資料提示、要点のつかみやすい話し方など、聞き手を配慮し、ものごとを多面的・多角的に捉えながらコミュニケーションをとることが求められます。そこで、説得力のある伝え方をするためには、どのような点に着目すればよいかという分析的視点を持ち、考えを深めます。ディベート実践後は、振り返りの場を設け、より説得力があると判断した理由や、自分たちの意図したことが伝わっていたかどうかについて情報を共有し、より充実した言語活動を目指していきます。

【授業2（11:10～12:00）】

1年D組 石川友理 ジェニファー鳥井

『えいごではなそ ～クエスチョンメイキングに着目した言語活動～』

本校 CAN-DO リストの「話すこと [やり取り]」における1学年の学習到達目標に向けた準備段階として、本題材では1年生がクエスチョンメイキングに重点を置いた言語活動に取り組みます。最終的にパフォーマンステストにおいて、生徒が1分間でALTに多くの疑問文を尋ねることができることを目標とし、その達成を目指した取り組みを本時で展開します。

本時では、6つの疑問詞（what, who, where, when, why, how）と、be動詞・一般動詞・助動詞 can を用いた疑問文を言語材料とします。生徒は4～5人のグループをつくり、これらの英語を用いて多くの疑問文を実際にALTに尋ねる授業を行います。協働学習の形態を取り入れることで、生徒同士の交流を通して学び合いの場を与えたり、生徒が自らの思考を広げたりすることを図ります。さらに、教師がALTとモデルの提示を行ったり、言語運用を可視化したワークシートを用いたりして生徒に言語に対する分析的視点をもたせたいと考えています。それにより、生徒自身が既習の知識を使って多くの情報を聞き出すことができる点に気づき、コミュニケーションをより豊かにしていく授業を追究していきます。

【教科分科会（13:10～14:40）】

研究主題や展開授業、本校英語科のこれまでの実践についての協議を行います。

たくさんのご参加をお待ちしております。

